



宮崎大学全診療科合同 臨床実習終了打ち上げ&診療科説明会

7月31日(木)にキャリアデザインサポート委員会・卒後臨床研修センター共催の医学部6年を対象とした宮崎大学全診療科合同臨床実習終了打ち上げ&診療科説明会が開催されました。

今回初開催でしたが、各部署ご協力のもと、学生55名、指導教員57名、研修医13名の計125名が参加し、会場の熱気と参加者の楽しそうな笑顔が印象的な大規模な会となりました。工夫を凝らした各科のプレゼンや先輩研修医からのメッセージは、学生達がこれから臨む臨床研修の一助となると思います。



平成26年度宮崎大学診療科合同説明会



10月17日(金)に専門医養成委員会及び卒後臨床研修センター共催による平成26年度宮崎大学診療科合同説明会が開催されました。

研修医は1年次15名、2年次8名の計23名の参加があり、診療科からは37名の参加がありました。

説明会は卒後臨床研修センターの片岡センター長のご挨拶から始まり、参加診療科からはユーモアたっぷりのアピールや熱



いメッセージ、そして激励の言葉をいただきました。

普段なかなか話すことのできない診療科の先生方と研修医が和やかな雰囲気の中交流を深め、最後は2年次研修医の山口智子先生が挨拶をされ、盛会のうちに終了しました。

研修医の声



Voice

1年次研修医

福井喜朗

(写真左から2人目)

1年目研修医の福井です。今は第三内科で研修中です。宮大での研修で学んだことは座学では学べない人間性であったり、生き方でもありました。ある教授は全ての入院患者のカルテをしっかり把握しておられ、ある病棟医長は山積する仕事の合間に、手とり足とり内科の基本を叩き込んでくださり、ある先生は睡眠不足を押してサマリを丁寧に直して頂き、未来の為に熱く指導して頂きました。日々感謝して一步一步前進していきます。



Voice

2年次研修医

宮後 湧

(写真中央)

研修医生活も気付けば残り半年になりました。私は宮崎大学出身で、将来宮崎で働くことを考え、大学病院を選択しました。県内各地の病院に出向き、市中病院ではcommon diseaseをメインに様々な手技や外来診療を、大学病院では重症患者の全身管理など、多岐に渡る経験をさせて頂いています。

本院のローテート選択は本当に幅広いですが、どんな診療科でも必ず得るものがあるし、ロールモデルとなる素敵な先生方との出会いが沢山あります。学生時代に勉強したのと、実際に医師として診るのは全くの別物で、日々新しい発見の連続です。診療や手技が上手に行かず悔しくて落ち込んだこともあります。そんな経験も今の私の糧となっています。そろそろ診療科を決める時期ですが、どんな道に進んでも研修医時代の出会いと経験を大切に努力していきたいと思えます。

みなさんもぜひ宮崎で一緒に働きましょう!!



海外医療体験(プリンス オブ ソンクラ大学)研修報告

2 年次研修医 篠原 希

海外臨床研修のためPSU(プリンス オブ ソンクラ大学)で救急2週間とFamily medicine1週間の研修をしてきました。私は学生時代にEMPのためPSUにてクリニック実習をさせていただいたこともあり、今回の海外臨床研修の目的は学生時代との違いを実感すること、手技の上達をはかることでした。臨床研修を終えて、私は当初の目的の拙劣さを痛感しました。海外で臨床研修をする最大の利点は、海外の医療を見るのではなく海外から日本の医療を見つめ直すことだと思います。日本医療に足りないもの、日本の優れている点など第三者の立場で感じることです。島国日本では感じられないことがたくさんあります。後輩のみなさんも、是非、海外で研修してください!



(写真右側)

“海外を知って、日本を知る”

2 年次研修医 中澤 枝里子

初期研修の一環でタイのPrince of Songkla University(PSU)にて3週間の海外医療研修をさせていただきました。PSUではPediatrics、ER、Family medicine(F/M)の3つの診療科で研修しました。一番印象的だったのは、F/Mでターミナルや複雑な慢性疾患の患者宅に訪問するHome visitに同行したことです。F/Mの医師は患者の病気を診るだけでなく、精神面やSpiritualな面のケア、患者家族のケアや、住宅など周囲環境のマネジメントまで行っており、まさに“患者中心の医療”“全人的医療”を行っていました。海外での医療状況を知ったことで、日本の医療が優れている点や、これから改善すべき点など、日本の医療について今までと違った視野をもつことができ、非常に有意義な経験となりました。こういった研修の機会をくださった宮崎大

学、PSU、また関わってくださった全ての方々に深く感謝しております。ありがとうございました。



(写真右から3人目)



指導医からのメッセージ



第一内科 芦塚 伸也先生

第一内科の芦塚です。18歳の時に宮崎に来て22年が経ちました。そのうち大学を離れたのは2年間だけなので、正味20年清武に居続け、今や「医局の中のラプンツェル」と自嘲してます(笑)。この間、沢山の研修医達と出会い、移り行く「研修医の進路志向トレンド」を身近に感じてきました。卒後制度前は、研修医は

入局した科の専門領域で迷うことなく研鑽できました。その流れからか、卒後制度が始まってからしばらくは、「専門医志向」が強い研修医が多く見られましたが、最近は「ジェネラリスト志向」が強いです。その時代背景には必ずといっていいほど「メディア」の影響が感じられます。もちろんメディアの情報も大切ですが、あまり踊らさせられすぎないようにご注意あれ。大人の事情がある人は別として、就職・入局なんて部活の入部と似たようなもので、「ここ面白いそう」で十分ですよ。自分の感覚に身を委ねてみませんか?ケセラセラってね。



研修医マッチング



平成27年度研修開始予定の「臨床研修マッチング」が行われ、医師は10月23日(木)、歯科医師は10月28日(火)にマッチング結果が発表されました。

【医師】	自主デザイン研修プログラム	35名
【歯科医師】	歯科臨床研修プログラム	3名

「九州ブロック初期・後期臨床研修進路説明会」

九州ブロック初期・後期臨床研修進路説明会が9月23日(火)に福岡国際会議場で開催されました。各ブースでの説明の他、「医師臨床研修制度と新たな専門医の仕組み」をテーマとした講演会が行われました。本院も宮崎県内の基幹型臨床研修病院とともに参加し、研修、病院等の魅力をアピールしました。



研修プログラムお助けQ&A



【第5回】研修中の必要経験症例確保のコツ

Q

現在1年目の研修中です。研修開始から半年が経過しました。研修センターとの個別面談時に提出する「研修到達目標進捗チェックシート」を記入しながら自分の経験症例を振り返ったのですが、レポート作成が必要な「A疾患」と「20症状」のうち、まだ経験していない病態がいくつかあります。2年次の研修先を選ぶ際にはそれらが経験できるような診療科を選択した方がいいのでしょうか？(質問者:研修医XLさん)

A

重要なご質問、ありがとうございます。はじめに研修ルールのおさらいをしましょう。

2年間の臨床研修はただ過ぎれば終わりではなく、研修修了に必要ないくつかの要件があり、その一つに「臨床研修の到達目標の適切な達成」があります。この到達目標のうち「経験目標」の一つに「B.経験すべき症状・病態・疾患」があります。経験すべき頻度の高い35症状のうち20症状については「経験」(自ら診療し鑑別診断を行うこと)と「レポート作成」が必要とされています。次に、経験すべき病態・疾患として88項目がリストアップされ、その中で「A疾患」(10項目:入院患者の受持とレポート作成)、「B疾患」(38項目:外来または受持入院患者で自ら経験すること)など区分されています。研修修了にはこの「A疾患」、「20症状」に「外科症例」と「CPC症例」を加えた計32レポートの作成が必要で、その他の経験はオンライン評価ツール(EPOC)での研修自己申告となります(この到達目標の詳細は宮崎大学研修医手帳に記載しています。また、厚生労働省のHPでも閲覧できます)。

さて本題ですが、この到達目標を意識して研修すれば、A疾患と20症状のほぼ全ては宮崎大学研修プログラムの1年次必修科目(内科、救急、外科系、精神科)で経験できます。ですので、先にお配りしているポケットサイズの「経験症例チェックカード」を活用して定期的に自分の経験症例を振り返り、未経験症例がある場合には、その旨をローテート先の指導医に伝え、受持症例を調整していただけて下さい。特に20症状については救急研修中に多くの症状を経験できますが、レポート作成に必要な症例情報を記録として取り忘れるケースが多いようですので、日々の診療終了時にこまめにチェックするように心がけて下さい。

ただし、過去10年間を見ると、研修ローテート先の選択状況により、1年次研修終了時点でA疾患のうち「脳・脊髄血管障害」や「心不全」が未経験となる場合があるようです。そのような場合には、2年次の地域医療研修や自由選択研修で未経験症例を診療する可能性のある領域を選んでいただくことも考慮すべきかもしれません。ただ、個人的には、到達目標達成のために過度に研修ローテートの希望(特に2年次)が制限されることなく、のびのびと研修していただきたいと思っています。そのためにも1年次の研修中から「リストアップ疾患」だけは頭の片隅に置いていただければと思います。

何とも歯切れの悪い回答で申し訳ありません…。最後に、この「臨床研修の到達目標」ですが、平成32年度の臨床研修制度見直しの際に改訂される方針で、今年度より改訂作業WGが既に始動しております。この動向次第では、将来的に本院の研修プログラムのあり方も見直す必要があるかもしれないことを申し添えます。

(回答者:副センター長 小松 弘幸)

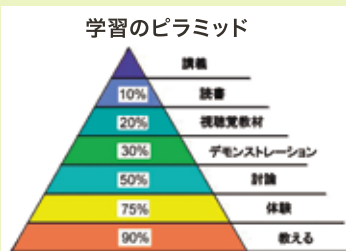


研修センターコラム

教育は人のためならず

安倍 弘生先生 (卒後臨床研修センター教員)

「情けは人のためならず」という格言があります。人に情けをかけるのは、その人のためになるばかりでなく、やがてはめぐりめぐって自分に返ってくるという教えです。人に教えることについてもこの格言と同様なことが言えるようです。「学習のピラミッド」モデルをご存じの方も多いと思います。これは異なる学習方法による学習定着率(忘れにくさ)の違いを示したもので、ピラミッドの下にある方法ほど学習定着率が高く、上にいくほど定着率が低い(頭に残りにくい)ということを表しています。講義のように受動的に教育を受けるより、後輩などに教えることの方が学習効果が高いということです。このモデルには明確な根拠がないという向



きもありますが、教える行為が学習方法として効果が高いことに異論はないと思います。人に何かを教えるということは面倒で時間のかかることです。事前には色々と資料を確認したり、書き出したり、頭の中でシミュレーションしたり、教える際は声に出したり、等々。その諸々が学習定着につながるのでしょうか。忙しすぎてそんな暇は無い!と言われそうですが、その日に学んだちょっとしたことで後輩の先生方や学生さんに教えてあげて下さい。きっと先生方の為になりますから。



行事予定

11月	28日(金)	宮崎大学医学部附属病院群卒後臨床研修プログラム説明会
	29日(土)	平成27年度研修ローテート等説明会 卒後臨床研修センター忘年会
12月	1日(月)・8日(月)	1年次研修医(医科)グループ面談
	20日(土)・21日(日)	平成26年度「指導医のための教育ワークショップ」(宮崎市)
1月	31日(土)	基本的臨床能力評価試験
	31日(土)~2/1(日)	第108回歯科医師国家試験
2月	7日(土)~9日(月)	第109回医師国家試験
3月	上旬	医師研修管理委員会・歯科医師研修管理委員会(修了判定)
	18日(水)	医師・歯科医師国家試験合格発表
4月	1日(水)~	平成27年度研修医オリエンテーション

なんでも
掲示板

研修『何でも掲示板』への原稿・記事募集!

研修に関する情報共有、意見交換の場として『何でも掲示板』のコーナーを開設します。内容は研修に関することなら何でも結構です。これは研修医に知ってほしいという情報、メッセージなどをぜひお寄せください。みなさまからのご応募をお待ちしております。

例)【内容】 研修医や指導医へのメッセージ、研修関連勉強会の案内、トピックスの紹介など

【字数】 200~400字程度

【図表】 1点まで可(掲載できるサイズが小さくなります。)

※センター通信発行月は毎年3回(4,8,12月)です。

宮崎大学 医学部 総務課 卒後臨床研修係 (内線: 2385/2386)

〒889-1692 宮崎県宮崎市清武町木原5200
TEL:0985-85-1864 / FAX:0985-85-3101
E-mail:sotugo@med.miyazaki-u.ac.jp